大坪大縄手遺跡

県営日置谷地区経営体育成基盤整備事業に伴う発掘調査報告書

（第　２　冊）

２００９．３

鳥取市教育委員会

序

この報告書は、県営日置谷地区経営体育成基盤整備事業に伴い、国庫補助金及び県補助金を受けて、平成20年度に実施した大坪大縄手遺跡の発掘調査の記録です。

鳥取市は平成16年11月に周辺８町村と合併し、人口約20万人を擁する山陰地方最大の都市になりました。鳥取市内の平野部をはじめ、丘陵上には数多くの遺跡が存在しています。これらの文化財は地域の先人たちの生活を語る歴史資料であり、後世に継承していかなければならない市民の貴重な財産です。

近年は、社会の進展に伴って、各種開発事業が計画・実施され、さらに増加する傾向にあります。文化財保護を推し進めている私共といたしましては、こうした開発と文化財の共存を図るべく関係諸機関と協議を重ね、円滑に文化財行政を進めているところです。

この調査にあたっては、鳥取県教育委員会事務局文化財課、鳥取県埋蔵文化財センターをはじめ、関係各位の格別なご指導・ご協力を仰ぎながら、土地所有者や作業員の方々の熱意により、ようやく調査を終了することができました。ここに深く感謝を申し上げる次第であります。

なお、この報告書は不十分なところも多くありますが、私たちの郷土の理解に役立てていただくと共に、今後の調査研究の一助となれば幸いです。

平成21年３月

鳥取市教育委員会

教育長　**中　川　俊　隆**

例　　言

1．本報告書は、県営日置谷地区経営体育成基盤整備事業に伴って行った発掘調査のうち、平成20年度に国・県の補助を得て、鳥取市教育委員会が実施した埋蔵文化財の記録である。
2．調査を実施した遺跡は、大坪大縄手遺跡である。
3．本書に用いた方位は、磁北を示し、レベルは海抜標高である。
4．発掘調査によって作成された記録および出土遺物は鳥取市教育委員会に保管されている。
5．現地調査および報告書作成にあたって多くの方々からの指導、助言ならびに協力をいただいた。厚く感謝いたします。
6．発掘調査の体制は次のとおりである。

発掘調査主体　　鳥取市教育委員会
事　務　局　　鳥取市教育委員会文化財課
調 査 担 当　　前田 均、谷口 恭子、加川 崇

本　文　目　次

序

例言

１．発掘調査にいたる経緯と経過 …… １

２．遺跡の位置と歴史的環境 …… ３

３．調査の結果 …… ５

写真図版

報告書抄録

挿　図　目　次

第１図　調査地位置図 …… ２

第２図　調査地周辺遺跡分布図 …… ４

第３図　出土遺物実測図 …… ５

第４図　調査区実測図 …… ６

図　版　目　次

図版１　調査前近景（南から）

調査前近景（北から）

耕作土除去後（南から）

図版２　調査地全景（北から）

第１面全景（南から）

第２面全景（南から）

図版３　調査区北壁土層断面（南から）

調査区西壁土層断面（北東から）

出土遺物

1. 発掘調査にいたる経緯と経過

鳥取市は鳥取県東部に位置し、県庁所在地として政治・経済・文化の中心的な役割を担ってきた。平成16年（2004）11月には周辺８町村（国府町、福部村、河原町、用瀬町、佐治村、気高町、鹿野町、青谷町）との市町村合併が成立し、面積765.66㎢、人口約20万人を擁する山陰地方最大の都市となった。

大坪大縄手遺跡は、鳥取市西部の青谷町大坪、蔵内地区に所在し、青谷町を三分する河川である勝部川と日置川のうち、東側を流れる日置川の中流域左岸に位置する。日置川が貫流する日置谷は、山根と早牛集落と狭小な谷平野から大坪集落で突如平野が開け平野幅も500mほどに広がる。この大坪から養郷にかけての小平野は、現在はのどかな水田地帯であるが地下には日置川の旧河道が随所にみられる扇状地帯である。

今回報告する大坪大縄手遺跡は、大坪集落東方の水田部に位置し、日置川と蔵内川に挟まれる標高185mの舟山北西裾周辺に位置する。遺跡の周辺では、西側丘陵上の弥生時代から古墳時代の大口遺跡群や丘陵裾の弥生時代後期から奈良時代のカマヤ遺跡などが1980年代に調査された以外は、遺跡の様相があまり知られておらず、近年の踏査や試掘調査によって遺構・遺物の散布状況が知られるようになったところである。

その後、合併前の青谷町産業振興課から県営の日置谷地区経営体育成のための大規模な基盤整備事業計画の協議がもたらされた。そこで鳥取県教育委員会事務局文化課、鳥取県埋蔵文化財センターと青谷町教育委員会で協議が行われた。遺跡の有無、その範囲・性格を知るための試掘調査が平成16年度から青谷町教育委員会が、11月合併後は鳥取市教育委員会によって実施されている。その結果、平野部中央に推定される微高地上に弥生時代から中・近世の遺跡がその粗密の違いや検出深度の違いはあるものの点在することが判明してきている。

今回の発掘調査は、この県営日置谷地区経営体育成基盤整備事業計画に伴って、鳥取市教育委員会と関係機関との間で計画変更なども含めた種々の協議を行った結果、現状での遺跡の保護・保存が難しい深く掘り下げる水路部分について記録保存の調査を行うことになったものである。平成18年度には同様に、大坪集落の北東に位置する大坪イカウ松遺跡の調査が行われており、奈良時代の木製祭祀具を中心に大量の各種遺物が出土している。今回大坪大縄手遺跡の調査の実施にあたっては、対象地の北側１割部分について鳥取市教育委員会が、残りの南側９割部分を鳥取市文化財団 鳥取市埋蔵文化財センターが実施することになった

調査は、６月下旬から発掘資材の調達・整備など調査準備に取りかかり、発掘資材の搬入を行った。排水溝や排水枡の設定など湧水対策を施した後、調査区の長軸に10m間隔で測量杭（Ｃ１～C13杭）を設定した。調査対象地区はC12.5以北である。なお、水田耕作土および中世遺構面までの層については平成19年度に重機により一部除去を行っている。また、調査は特に北側は標高が低くなるとともに東側からの湧水が著しく、調査区東壁面の崩落など調査は一部困難を極めたが段掘りなどで対応した。

調査の結果、土坑や溝など明確な遺構は検出されなかったものの中世の遺構面と縄文時代晩期遺物包含層を確認し、縄文土器や土師器、瓦質すり鉢などが出土した。特に瓦質のすり鉢片は南調査区を合わせても唯一の瓦質土器で、土師器も数少ない資料である。

調査を通じて、適宜写真撮影や実測をして記録類の作成を行い、平成20年９月18日に現地調査を終了し撤収作業を行った。出土した遺物、写真や図面などの記録類の整理は一部現地調査と並行して進め、出土遺物については水洗い後注記作業を行った。整理作業終了後順次報告書作成作業にとりかかり、平成21年３月に終了した。

第１図　調査地位置図（Ｓ＝１：5,000）

２．遺跡の位置と歴史的環境

鳥取市は県東部に位置し、面積765.66㎢、人口約20万人を擁する県庁所在地である。平成16年11月に青谷町を含めた周辺九市町村による広域合併を行い、北は日本海を臨み、南は岡山県と県境を挟む。青谷町は鳥取市の北西端に位置し、東西7.7㎞、南北13㎞、総面積67.91㎢である。東は佐谷峠から日本海へ突き出した長尾鼻へ続く尾根で気高町、鹿野町と、南は小富士山（標高768m）等の山で三朝町と、西は川上峠・鉢伏山（標高513m）から延びる尾根で湯梨浜町と接し、北は日本海を望む。町の東を日置川、西を勝部川が流れ合流する河口付近に沖積平野が開け、海岸部に砂丘が形成されている。

大坪大縄手遺跡は、青谷町の中央東寄り、大坪と蔵見地区の境界部に位置し、日置川の中流域左岸の標高８～13mの水田部に立地する。日置谷地区は昭和24年から大規模な圃場整備が行われ、当時重機はさほど使用されなかったこともあり、平野の中央部に自然堤防状の旧地形の高まりを観察することができる。日置川が貫流する日置谷は、日置川と蔵内川を介する舟山（標高185m）の存在など大坪および蔵内地区の南側で急激に平野幅を狭めており、大坪集落背後の緩斜面および丘陵上は青谷町有数の遺跡の密集地帯である。

青谷町内には、現在のところ、縄文時代以降の約480箇所の遺跡が確認されている。

【縄文時代】 縄文前期には縄文海進により吉川と養郷辺りまでは入江と想定されている。縄文遺物散布地が数箇所確認されており、前期土器が蔵内上長谷第２遺跡で、中期土器が青谷高校新築時に、後期土器が蔵内上長谷第４遺跡で、石皿や石斧が長和瀬稲葉尾遺跡で出土している。大坪イカウ松遺跡、青谷上寺地遺跡でも晩期の土器が出土している。

【弥生時代】 弥生時代を代表する全国的に著名な遺跡として青谷上寺地遺跡が挙げられる。平成９年の試掘調査に始まり平成12年の弥生人骨と脳の発見、平成20年の国史跡指定以降も遺跡の発掘調査が進められている。精巧な木製容器、貨泉、卜骨、朝鮮半島の無文土器、長さ７ｍを超える柱材等これまでの弥生時代のイメージを払拭させるに十分な多種多様で膨大な遺物が出土している。この他の弥生遺跡として、住居跡が検出されたカヤマ遺跡、土壙墓、貯蔵穴や竪穴住居が調査された大口第１～３遺跡、中期完形壺が出土した青谷第４遺跡、蔵内水船遺跡、田原谷宮下遺跡などがある。

【古墳時代】 青谷町に分布する古墳は約370基を数える。海岸から６㎞内陸の平野を見下ろす丘陵および裾部に築造される。前方後円墳は町内に３基が確認されており、長尾鼻先端部に造られた長尾鼻１号墳（全長34m）は青谷町最大規模を誇る。船や星などの線刻壁画で知られる阿古山22号墳は日置川右岸に、同様に船の線刻のある吉川43号墳を含み103基から成る吉川古墳群は勝部川左岸の青谷上寺地遺跡を見下ろす丘陵に立地する。大坪地区でも大坪古墳群、大口古墳群を合わせると55基となり、1984、1989年に前期古墳が調査され、銅鏡や玉類、鉄製品などが出土している。この他集落遺跡としては青谷第１遺跡、大口第１～３遺跡、カヤマ遺跡などがある。

【歴史時代】 律令体制下、青谷町は因幡国気多郡日置郷・勝部郷に属しており、早牛の利川神社など四つの式内社が比定されている。このうち青谷の相屋神社辺りは古代官道の駅屋である柏尾駅の推定地である。天正９年（1581）に鳥取城が陥落すると亀井茲矩領となった。亀井氏は勝部川河口東岸の蘆崎湊を拠点に長崎経由で東南アジアとの朱印船貿易を行った。1617年の亀井氏移封後は池田光政、池田光仲と経て幕末まで鳥取藩領であった。この時期の調査例としては、善田傍示ヶ崎遺跡や大坪イカウ松遺跡で馬形、人形、斎串など奈良時代の大量木製祭祀具が、青谷上寺地遺跡でも僅かながら祭祀具や転用硯が、早牛のカヤマ遺跡では奈良時代の土馬や須恵器が出土している。山田淡谷東平遺跡では平成９年の調査により中世の礎石建物跡や鍛冶に関連する鉄滓、釘などが検出されており、絹見の千龍寺経塚では経筒が出土している。

1　青谷第１遺跡
2　青谷上寺地遺跡
3　善田傍示ヶ崎遺跡
4　大坪イカウ松遺跡
5　大坪大縄手遺跡
6　大坪岸ノ上遺跡
7　大口第３遺跡
8　大口第２遺跡
9　大口第１遺跡
10　カヤマ遺跡
11　蔵内水船遺跡
12　蔵内上長谷第２遺跡
13　蔵内上長谷第４遺跡
14　岩本遺跡
15　青谷第４遺跡
16　鳴滝宮ノ前遺跡
17　山田淡谷東平遺跡
18　田原谷宮下遺跡
19　長和瀬稲葉尾遺跡

A　長尾鼻古墳群
B　阿古山古墳群
C　養郷古墳群
D　蔵内古墳群
E　善田古墳群
F　奥崎古墳群
G　大坪古墳群
H　大口古墳群
I　早牛古墳群
J　露谷古墳群
K　亀尻古墳群
L　鳴滝古墳群
M　吉川古墳群
N　井手古墳群
O　長和瀬古墳群
P　長谷古墳群
Q　釜ノ口古墳群

a　長尾鼻１号墳
b　青谷２号墳
c　阿古山22号墳
d　吉川43号墳

凡　例

集落遺跡・遺物散布地
墳墓群・古墳群
主要古墳
横穴
城跡
窯跡

第２図　調査地周辺遺跡分布図（Ｓ＝１：40,000）

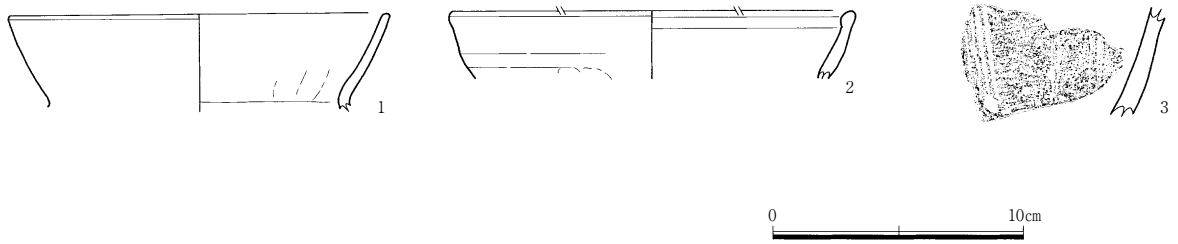
３．調査の結果

大坪大縄手遺跡は、日置川左岸に広がる扇状地平野の旧河道に沿って形成された自然堤防状の微高地、標高８～13mに立地する。今回の調査対象地は日置谷地区の基盤整備地南限の水路建設予定地で、平野東側の日置川左岸土手上を走る県道とほぼ並行する南北に細長い調査区である。今回の調査区の南には調査主体の異なる（南調査区）が隣接する。この南調査区との調査の整合性を考慮し、10m間隔の測量杭（Ｃ１～C13杭）は両調査区を合わせた通しで設置しており、本調査区は測量杭でC12.5～C13.85までが対象となる。なお、調査に先立って平成16年度に本調査区の東側でT13、平成19年度に北西側でTr45の試掘調査を行っている。

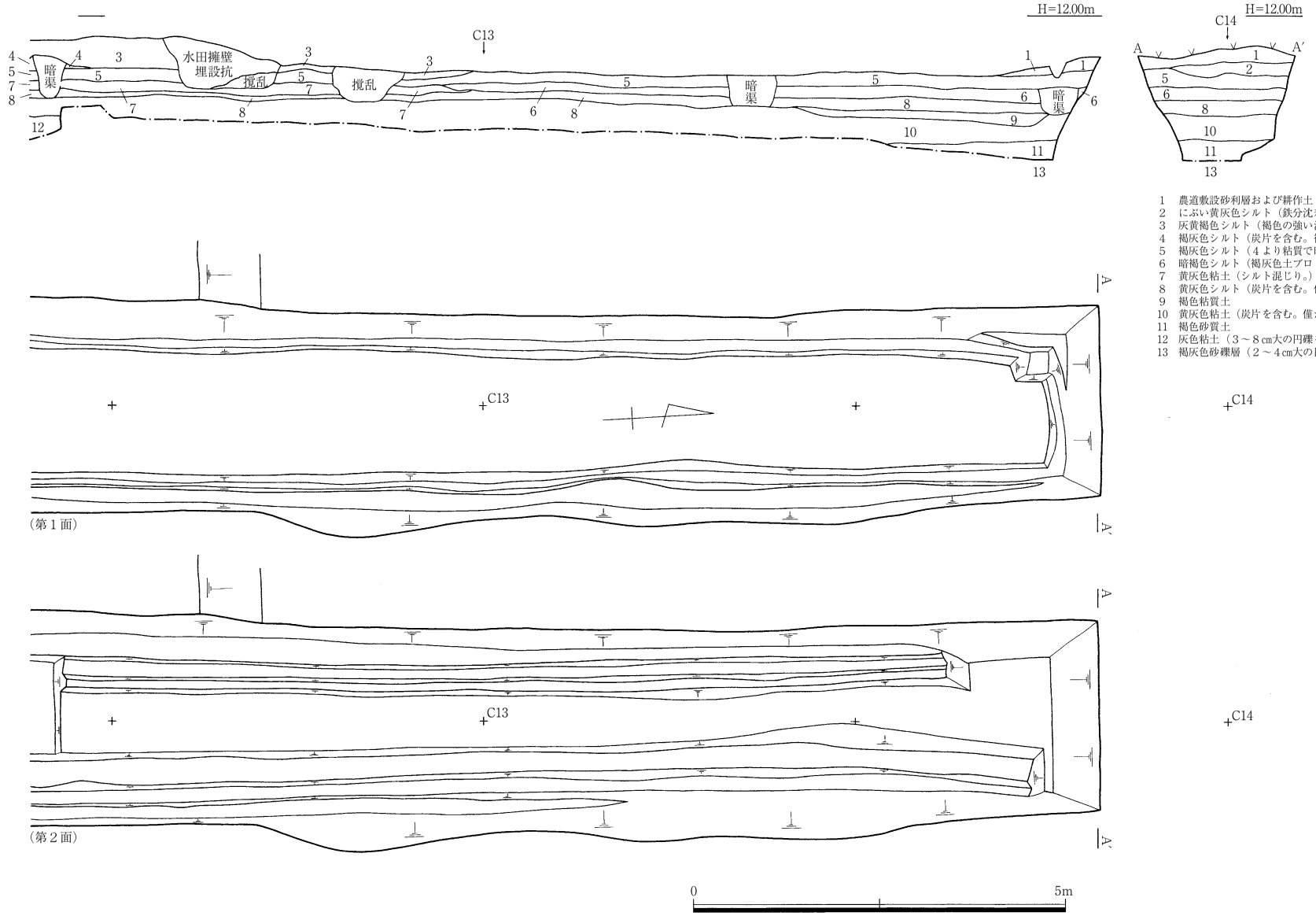
今回の調査区は現水路西側に敷設された砂利敷きの農道および西側水田の一部にあたり、C12.6南で現水田のコンクリート製擁壁が調査区に直交する軸で埋設され段を成す。層序は、第１層農道敷設砂利層および水田耕作土、第２層にぶい黄灰色シルトも旧耕作土とみられ、第３層灰黄褐色シルトは現在の水田区画が形成された昭和24年圃場整備時の客土である。以下、第４・５層と炭片を含む褐灰色シルトの下に北側では第６層暗褐色シルトと南調査区から続く第７層黄灰色粘土が、それらの下層には第８層黄灰色シルト（炭片を含む。僅かに褐色の沈着あり。）が広がる。この第８層が中世の遺物包含層でその下面が中世面（第１面）である。北側で第９層褐色粘質土が観察されるものの第10層黄灰色粘土と下層に第12層灰色粘土、第13層褐灰色砂礫が堆積し、北側では第13層上に第11層褐色砂質土が観察される。第10層が縄文時代晩期遺物包含層である。

出土遺物は、中世の包含層である第８層の掘り下げの際に瓦質すり鉢(3)が、さらに調査区北端で古墳時代の土師器壺もしくは甕の口縁部細片(1)(2)が出土している。ともに第９層中の出土と考えられる。この他、第10層掘り下げ時に縄文土器片が散在的に出土しており、量的には１袋程度である。口縁部(1)は口縁の一部の残存で推定径14.9cmを測る。全体に風化剥落すすみ端部も僅かながら摩滅する。口縁部(2)は口縁の一部の残存で(1)同様に淡橙褐色の色調を呈し、内湾しながら開き端部内面が肥厚する。(1)(2)はともに古墳時代中期の所産と思われる。瓦質すり鉢の体部片(3)は内面に７条単位のおろし目が観察される。

南側の調査主体の異なる南調査区（Ｃ１～C12.5）では、砂礫層上に中世の柱穴や溝状遺構、礫層斜面の上位層から縄文時代晩期前半の土器溜りが検出されている。精査した結果、北調査区にあたる本調査区内では明確な遺構状の落ち込みなどは検出されなかったが、南調査区から連続する中世の遺物包含層を捉え、部分的ながら古墳時代中後期の遺物包含層を確認した。この層は平成19年度調査Tr45でも確認されており、さらに本調査区外へ広がる様相を示す。なお、本調査区の50m南では弥生時代後期の包含層が検出されている。このように、本調査区外において安定的な中世、縄文時代の層以外にも部分的ではあるが複数期の層が内包される可能性があるとともに、遺構の存在を考えることも可能性としては残されよう。



第３図　出土遺物実測図（Ｓ＝１：３）



1　農道敷設砂利層および耕作土
2　にぶい黄灰色シルト（鉄分沈着。）
3　灰黄褐色シルト（褐色の強い沈着あり。）
4　褐灰色シルト（炭片を含む。褐色の弱い沈着あり。）
5　褐灰色シルト（４より粘質で暗。炭片を含む。）
6　暗褐色シルト（褐灰色土ブロックを含む。）
7　黄灰色粘土（シルト混じり。）
8　黄灰色シルト（炭片を含む。僅かに褐色の沈着あり。）
9　褐色粘質土
10　黄灰色粘土（炭片を含む。僅かにシルト混じり。褐色の沈着なし。）
11　褐色砂質土
12　灰色粘土（３～８㎝大の円礫を含む。粗砂を含む。）
13　褐灰色砂礫層（２～４㎝大の円礫を多く含む。）

第４図　調査区実測図（Ｓ＝１：80）

写　真　図　版

図版 1

調査前近景
（南から）

調査前近景
（北から）

耕作土除去後
（南から）

図版２

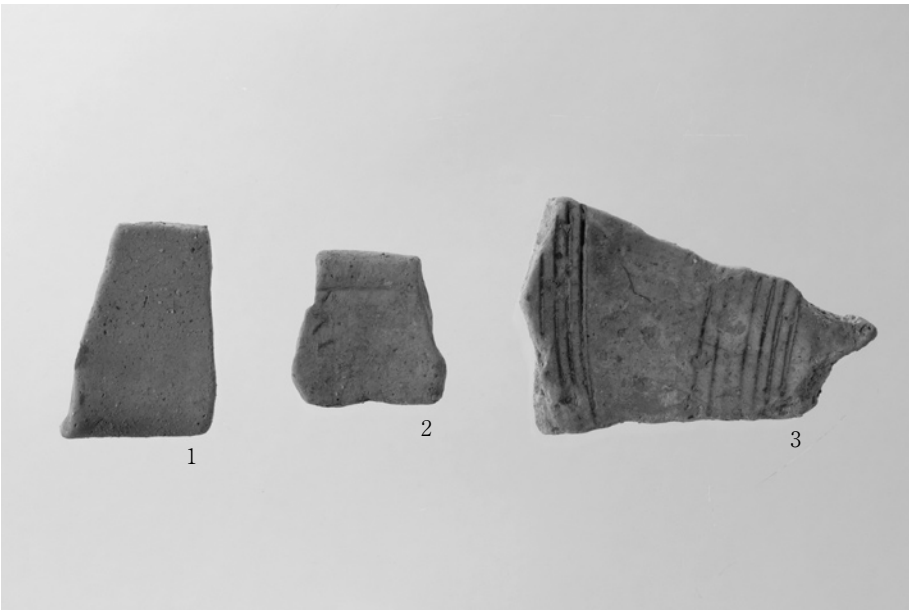
調査地全景
（北から）

第１面全景
（南から）

第２面全景
（南から）

調査区北壁
土層断面（南から）

調査区西壁
土層断面（北東から）



出土遺物

報　告　書　抄　録

ふりがな	おおつぼおおなわていせき だいにさつ
書名	大坪大縄手遺跡（第２冊）
副書名	県営日置谷地区経営体育成基盤整備事業に伴う発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	加川　崇　　谷口恭子
編集機関	鳥取市教育委員会
所在地	〒680-8571　鳥取県鳥取市尚徳町116番地　　TEL（0857）20-3367
発行年月日	西暦2009年（平成21年）3月26日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 （㎡）	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おおつぼおおなわていせき 大坪大縄手遺跡	とっとりし 鳥取市 あおやちょう 青谷町 くらうち 蔵内、 おおつぼ 大坪	31201	18-464	35° 29′ 29″	134° 00′ 51″	H20.07.07 ～ H20.09.18	44.5	基盤整備

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
おおつぼおおなわていせき 大坪大縄手遺跡	集落遺跡	縄文時代晩期前半 中世	（遺物包含層）	縄文土器、土師器 瓦質鉢	

大坪大縄手遺跡（第２冊）

－県営日置谷地区経営体育成基盤整備事業
に伴う発掘調査報告書－

平成21年３月26日　印刷・発行

編集・発行　鳥取市教育委員会
印　　刷　有限会社タクミコーポレーション

大坪大縄手遺跡（第二冊）

二〇〇九

鳥取市教育委員会